

静岡・土橋遺跡^{つちはし}

- 1 所在地 静岡県袋井市土橋
- 2 調査期間 第五次調査 一九九一年(平3)五月～八月
- 3 発掘機関 袋井市教育委員会
- 4 調査担当者 吉岡伸夫・早川保子
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 弥生時代～江戸時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(磐田)

土橋遺跡は、静岡県西部の小笠山と磐田原台地に挟まれた平野のほぼ中央、太田川の東岸に形成された標高9m前後を測る自然堤防上に位置している。第一次調査区からは、奈良時代後期の遺構・遺物がまとまって出土している。なかでも墨書土器「国厨」「里當」「里人」「上人」や人面墨書土器が出土しており、遺構は一般集落の様相を示すが、文字資料からは国府と

関連のある機能をもった集落として注目されている。

木簡の出土した第五次調査区は、第一次調査区より北へ一五〇mほど離れた場所である。第五次調査区からも奈良時代後期の「刀自」ほかの墨書土器や、掘立柱建物の遺構が検出されている。木簡は、西拡張区の平安時代前期の溝SD二から、灰釉陶器とともに一点出土した。

8 木簡の积文・内容

(1) 二斗五升□

(64)×15×3 081

木簡は上下両端が欠損し全体の形状は分からないものの、文字の内容から見ると付札の可能性が考えられる。片面のみに文字がある。

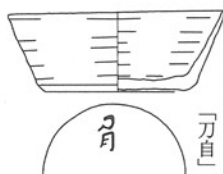
9 関係文献

袋井市教育委員会『土橋遺跡Ⅴ』(一九九三年)

松井一明「土橋遺跡」(静岡県教育委員会『静岡県の古代寺院・官衙

遺跡』二〇〇三年)

(松井一明)



墨書土器